

<建設業経理士1級（原価計算）ミニテスト4>工事間接費の配賦

予定（正常）配賦率を計算する際の基準操業度を3種類あげ、一般的に建設業で採用される操業度を答えなさい

<解答>

次期予定操業度、長期正常操業度、実現可能最大操業度

一般的には次期予定操業度が適している

※参考：岡本清「原価計算」より

「現在は不確実性の時代という言葉で象徴されるように経済状態が不安定で、好況と不況の波を長期的に平均化する平均操業度（長期正常操業度）を予定することは困難である。

（中略）そのような理由から、多くの企業では期待実際操業度を採用し、これを基準操業度とする正常配賦を行っているようである。

※わが国では70%の企業が次期予定操業度を使用しているという統計データもある